

大規模数値解析結果の先端可視化技術の開発

研究目的

地震被害評価は大規模数値解析の計算結果に基づくが，これには膨大な量の計算結果を効果的に可視化することが必須となる．3次元視とマルチスケールが可能な可視化を開発するとともに，応急評価に使えるよう高速処理も併せて実現する．

研究体制

氏名	所属		具体的な実施業務内容
	部門	役職	
廣瀬 壮一	情報理工学研究科	教授	研究統括
盛川 仁	総合理工学研究科	教授	地盤モデルの構築
山中 浩明	総合理工学研究科	教授	地盤モデルの構築
坂田 弘安	応用セラミックス研究所	教授	構造モデルの構築
山田 哲	応用セラミックス研究所	准教授	構造モデルの構築

年次計画

- H24 都市モデルの構築
- H25 都市地震被害の可視化
- H26 構造物モデルの高度化
- H27 都市地震被害の可視化の高度化
- H28 都市地震被害の可視化の有効性の検証

今年度の計画

都市に関する地理情報システムのデータを利用することで，東京23区全体を対象とした地盤の都市モデルと構造の都市モデルを構築する．構造の都市モデルでは構造物一棟一棟をモデル化する．サブプロジェクトと連携して，災害対応能力の向上に有効な可視化の方法について検討を開始する．